

2014年3月、登戸研究所資料館は

おかげさまで開館4周年を迎えます。

【館長よりごあいさつ】

開館4周年にあたって

館長 山田 朗（明治大学文学部教授）

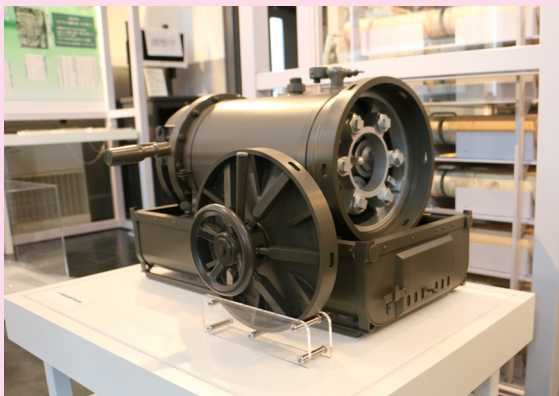
本年3月29日で資料館は開館4周年を迎えることができました。来館者は、すでに累計で3万2,000人を超えています。昨年度もこれまでと変わらず多くの皆様にお越しいただきましたことにあつく御礼申し上げます。

開設以来、資料館は、常設展示と毎年の企画展の充実に努力して参りました。昨年は、第五展示室に石井式濾水機濾過筒の現物350本を新たに展示するとともに、本年2月よりその濾過筒を装填して使用した「九八式衛生濾水機」の原寸大レプリカの展示を始めました。

企画展においては、「本土決戦と秘密戦」と題して戦争末期における登戸研究所の各地への分散疎開と本土決戦用兵器の開発、中野学校との関係などについて新たな資料と調査に基づく展示を行いました。企画展で初めて展示した時限爆弾の起爆装置と思われる腕時計（伴幸雄氏寄贈）は、常設展示に加えることにいたしました。

資料館はすでに今年度の企画展（風船爆弾や偽札の素材になった和紙生産に焦点をあてる）にむけて調査・研究を始めています。今後も登戸研究所の実態解明と史実の継承のために不断に展示内容の見直しと充実に努めて参りますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

九八式衛生濾水機丙 模型 展示開始



作成：株式会社共立模型

協力：陸上自衛隊衛生学校医学情報史料室（彰古館）

石井式濾水機の後継機である「九八式衛生濾水機丙」の実物大模型が第五展示室の展示に加わりました！

同展示室に展示されている、登戸研究所に運び込まれた大量の濾過筒が装填され、使用されていた濾水機です。この模型を見れば「この濾過筒はどうやって使うのか？」「どうやって水を濾過するのか？」がよく分かります。

細部まで忠実に再現されたこの模型を、是非、資料館でご覧ください。（椎名記）

2013年12月14日、 来館者が30,000名を突破 しました

登戸研究所資料館は2013年12月14日、開館以来の来館者が3万名となりました。

記念すべき3万人目となったのは、長野県箕輪進修高等学校の生徒さんと同県上伊那郡・駒ヶ根市を中心とした先生方の合同グループです。上伊那地方は登戸研究所が敗戦間際に疎開をした地域で、今回は地元にもその痕跡が残る

第4回企画展 「本土決戦と秘密戦」が 終了しました

第4回企画展「本土決戦と秘密戦—その時登戸研究所は何をしていたか—」が3月29日に終了いたしました。当初3月9日までの予定でしたが、好評のため延長し、特に終了間際は連日館内が溢れるほどのお客様にご覧いただきました。中野キャンパスでのサテライト展示も3月にアンコール展示を行い、前回以上の賑わいを見せました。

会期後半も各種関連イベントがいずれも大盛況でした。12月21日には第二回証言会として、元登戸研究所所員の方々が「疎開先での登戸研究所」をテーマにお話くださいました。1月11日には山田朗館長による企画展記念講演会「本土決戦・登戸研究所・中野学校」が、ま

登戸研究所について学ぶツアーを組まれて来館されました。

「皆さんが、ちょうど3万人目のお客様です。」と山田朗館長がご挨拶すると、「おおっ」と一斉に歓声が上がりました。記念セレモニーでは記念品の贈呈と記念撮影を行いました。その後の特別講義や館内見学では真剣に耳を傾け、展示資料にも熱心に見入っていました。



3万人目の来館者となった長野県の高校生と先生方のグループのみなさん。資料館の前でのワンショット。

た2月22日には最後の回となる企画展展示解説会も開催されました。参加された皆様、どうもありがとうございました。

また、初の試みとして、今回の企画展の内容が当館ホームページにてご覧いただけるようになりました。トップページのイベント記録(<http://www.meiji.ac.jp/noborito/event/index.html>)から閲覧できます。企画展をご覧になられた方も、見逃した！という方も是非一度ご覧ください。



12月21日開催の第二回証言会での一コマ。登戸研究所が長野県に疎開した際のお話をさせていただきました。

1月11日の企画展記念講演会の様子。登戸研究所と共に秘密戦の両輪を担った中野学校の話は皆さんが特に興味深く聞いていらっしゃいました。



(ここまで椎名記)

多摩区3大学連携フェアに参加しました

2014年3月15日(土)多摩区3大学連携フェアが川崎市多摩市民館 大会議室で開催されました。「3大学」とは同じ多摩区内にある明治大学、日本女子大学、専修大学を指し、当資料館もこのイベントにブースを出展しました。

足を運んでくださった来場者は「登戸研究所資料館があることは知っているが、行ったこと

がない」という方がほとんどでしたので、リーフレットと4月～6月分の見学会チラシをお渡しし、当資料館の情報を提供することができました。(和田記)



「3大学連携フェア」の当資料館のブースの様子

「元登戸研究所勤務者が語る陸軍秘密戦研究所」

第三回 〈登戸研究所での勤務内容③〉

今回は第三科南方班で偽札の「漉かし」検査、および北方班で偽札の紙に使われる原料の選り分けをされていた土本こま様と、偽札を上海まで運んだ中野学校卒業生、土本義夫様のお話をご紹介します。

※ [] 内は資料館で書き加えた内容です。

〈登戸研究所での勤務内容〉

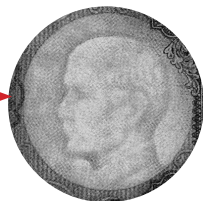
— 土本こま様（第三科北方班，南方班で勤務） —
高等小学校卒業後，1941（昭和16）年，16歳の時に[第三科]南方班に入りました。親にも兄弟にも何の仕事をしているのか一切言わないってこと，それからなんにも話してはいけないってことで入りました。[敷地内]一番奥の方の建物（現在第一校舎1号館がある場所）で働いていて，そこにA4の倍ぐらいの紙が来るんですよ。その紙に，なんなのか解らないけれど，人形の顔が写っているのが何個もあり，顔を見て，曲がっていないかどうか，ぶれていないかどうかを検査していました。[印刷をする前の]白い紙を検査していました。私たちはこれが何になるのか，どういうものになるのか全く知らないで，何なんでしょうと疑いも持たないで，一生懸命仕事していました。それから，1年ぐらい仕事していましたから・・・。南方班から北方班（現在の理工学部校舎がある辺り）の方にまわされて，[偽札の紙の]原料について仕事していました。原料は，白のぼろ[布]で，こんなものが紙になるのかと思いました。それを選別して，煮て，細かく砕いて紙にしていました。

— 土本義夫様（中野学校ご出身，登戸研究所から上海まで偽札運搬をご担当） —

私はね，1944（昭和19）年に現役で入営したんですが，満州の公主嶺（現中国東北部にある県級市）に[行った後]試験があったんですね。そして，昭和19年度特殊勤務要員として再試験のため，東京九段陸軍偕行社かいこうしゃに出頭を命ずると命令が出まして，それで満洲から帰ってきました。中野学校に入り卒業しまして，登戸研究所の[偽札運搬]勤務。[中野学校の教育は]一日歩く練習ばかり。まだ足が[軍隊の歩き方に]慣れている，まだ足が活発だとか。ようするに軍隊の，軍人のなりをとらなきゃいけないから。街を歩いても，上官がいても，向こうが私服だったら挨拶してもいいが，軍服だったらどんな階級でも知らん顔して通れと，そういう教育を受けてきました。[東京に]着いたその日は学生番号奇数のものは中野駅からのれ，偶数のものは高円寺駅からのれと。最初に靖国神社参拝して，明治神宮参拝して，それで帰る。あくる日からは午前は勉強ばかりさせられました。午後は演習。[偽札の運搬については]船で[偽札を上海まで]2回運んで，1945年になると東シナ海が米軍がいて危ないから，神戸もじ門司から釜山ぶさんへ行き，列車で2回運びました。やっぱり列車の運搬が苦勞しましたね。船だと積んで終わりですけども，列車だと，南京から北京に運んで駅長室に交渉して。それから中国人も雇って歩行ようすこうで揚子江を渡って南京まで馬車で運んで，憲兵がいて困って。揚子江を渡るとき，1個荷物が流れていっちゃって，ぷらぷらと。もうびっくりしちゃった。今考えると，若いからできたんであって。一睡もしないで南京から上海まで6時間か8時間かかって，一睡もしないで元気に運んで。全部で4回運んだのですが全部無事に運べました。



漉かし部分拡大



証言に出てくる「人形の顔」とは法幣に白黒漉かしで漉きこまれていた孫文の顔だと思われる。上部写真で赤く囲ってある部分に漉かしが入っていた。白黒漉かしは印刷局門外不出の技術のため，偽造を行う際に大変苦勞したと当時の関係者は後に語っている。

（資料：中央銀行5円券 大島康弘氏寄贈）

土本義夫様は昨年ご逝去されました。謹んでお悔やみを申し上げますとともに，心からご冥福をお祈り申し上げます。
（塚本記）

資料館よりお知らせ



中国交通銀行 10元券『6連偽札』（渡辺賢二氏寄贈）：裁断される前の交通銀行券の偽造紙幣。未完成品。右下に×の折れ目加えられている。登戸研究所が製造したものと考えられている。

春の特別展示

登戸研究所製造『6連偽札』オリジナルを展示します

下記期間中、普段はレプリカでしか見ることができない登戸研究所製造偽造紙幣「交通銀行 10元券『6連偽札』」のオリジナルを展示します。

【展示期間】 4月16日（水）～5月3日（土・祝）

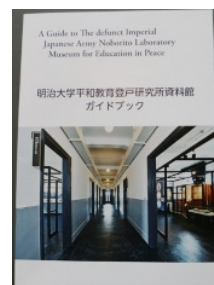
【展示場所】 資料館内第四展示室

当資料館のホームページや、FacebookやTwitterでもご案内していますので、こちらもどうぞご参照ください。

登戸研究所資料館のガイドブックが改訂されました！

登戸研究所資料館ガイドブックが2014年3月に改訂されました。みなさまご覧頂けましたか。初版から調査・研究が進んだ結果、登戸研究所構成員数の推移など、これまでの調査を反映し、初版よりも実りある内容のオールカラー 30ページの1冊にまとめました。

事前予約の方、またはご来館の方には無料でお配りしています。ご希望の方は当資料館事務室までお気軽にお声をおかけください。



改訂版は表紙に「ガイドブック」と明記されているのが目印です。

見学会開催のお知らせ

明治大学構内に残る登戸研究所史跡案内をしたあと、解説つきで資料館をご案内いたします。

山田 朗 館長 ガイド日：4月26日（土） / 5月17日（土） / 6月14日（土）

渡辺 賢二 先生 ガイド日：5月3日（土） / 6月28日（土）

集合場所：13時 明治大学生田キャンパス 中央校舎1階ロビー（15時終了予定）

参加費：無料 <<学外の方は事前予約をお願いいたします>> *見学会当日の午前中まで受け付けます。

4月9日現在の来館者人数は 32,064 名です。

編集・発行：明治大学平和教育登戸研究所資料館

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1

明治大学生田キャンパス TEL/FAX：044-934-7993

E-mail：noborito@mics.meiji.ac.jp

URL：http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html

twitter  : https://twitter.com/meiji_noborito

facebook  : https://www.facebook.com/Noboritoshiyoukan

<<開館のご案内>>

水曜日～土曜日 午前10時から午後4時

入館料：無料

*10名以上の団体予約を希望する場合は、原則、見学希望日の1か月前までにお電話またはメールにて事前にご予約をお願いします。

*団体予約の場合は日曜日もご予約可能です。ご相談ください。ただし、予約状況などによりお断りすることもあります。ご了承ください。